

祭神 水波能女命
祭日 一月六月十九日
社格 村社

所在 川口村(北魚沼郡川口村大字川口)

今按此神社妻有郷より流來る信濃川と上田郷より流出る魚沼川の會所川口村ある山の尾崎の河岸に鎮座の故を以て川合神社と云ふと地勢にかなへり且越後風土記節解にも此地なる由云るもの證とすべし又西川口村にも川合神社あれど川口村より移せるものなるべし川井村にも川合神社明口明神と云あり川井を古へは川合と書りなど云とも川合と云べき地形に非ず四日市村上下諏訪兩社とも云は魚沼川と澁間川と會同の地なれば云ふなれどもこはもとより諏訪の社なること著し

○蒲原郡十三座 六一座 小十二座

青海神社二座

祭神 推根津彦命

大國御魂命

祭日 中申酉戌日

社格 縣社

所在 青海庄賀茂驛(南蒲原郡加茂町大字加茂)

宇都良波志神社 稱日吉大神

祭神

今按社傳祭神大己貴命大山昨神とあれど大山昨神は日吉神と云より云出たるにて宇都良波志神の御名にはあるべからず

祭日 五月五日八月十五日

社格 村社(明細帳になし)

所在 橋田村(中蒲原郡橋田村大字橋田)

今按橋田村日吉社其地景を察するに式内の古社とおぼゆ末社天神社の側に鶺鴒と云橋あり其邊の田地の字を鶺鴒と云事御圖帳に確に記せり依て其天神社を鶺鴒神社と云へども橋田村は鶺鴒田の異稱にて日枝社ぞ宇都良波志神社なるべしと注進狀に云る實にあたり故今之に従ふ

伊久禮神社

祭神

祭日 三月八月十五日

社格 村社(明細帳になし)

所在 井栗村(南蒲原郡井栗村大字井栗)

今按萬葉集十八大原高安真人の歌にいもかいへに伊久理のもりの藤花今こむ春もつねかくし見むとあるが如く今も社前に藤繁れり此藤舊社地字藤の木と云處より引移したるなりとぞ此藤の木と云字は廣き名にて井栗村また北野白山等の新田にも互れり其田所の水上に舊社地あり石

祠内に梵字にて藤木權現と云ふもいと由あり

槻田神社

祭神

祭日

社格

所在

今按三條町八幡宮を槻田神社と云ひ又月岡村津神社なりとも云り三條村なるは境内に槻の大樹あるによりて中古大槻の庄と云ひ今も庄名あり大槻瀉と云古沼ありと云る由ありて聞ゆ然るに月岡村なるも其社地に槻大樹あり村名月岡の月は槻の借字なり村名月岡と云ひ社に槻大樹あり仍て槻田神社と云ひ又津大神とも云もの亦や證ありか、れば二社今何れとも今決めがたし

小布勢神社

祭神 大彦命

祭日 三月八月十五日

社格 村社

所在 上保内村(南蒲原郡大崎村大字上保内)

今按土人の説に保内村はもと布勢村と云ひしを二百年以來保内の稱に覆はれて布勢は支村の如くなれり小布施神社膳殿と云山中にありしを後今の地に遷座ありし也又神社に並びたる神官宅地につゞきて小布施山石塚長泉寺あり

り是本社の別當なりしと云ふもの證とすべし

伊加良志神社

祭神

祭日

社格

所在

今按社傳に祭神五十日足彦命なるか社地の奥に御唐とて高一丈餘周圍二十間餘三方絶壁にして老樹繁茂す是皇子の御墓なりと云傳ふとみえたりこは古事記に五十日足彦命者高志池君直祖とあり又五十日足彦の名と伊加良志と相同じによりて附會したる歎尚よく考ふべし

祭日 四月二十九日九月十日

社格 村社

所在 下田郷五十嵐莊飯田村(南蒲原郡鹿峠村大字飯田)

伊夜比古神社

祭神 天香兒山命

神位 淳和天皇天長十年七月丙戌朔戊子越後國蒲原郡伊夜比古神預之名神以彼國每有旱疫致雨救病也仁明天皇承和元年十月壬戌奉授越後國無位伊夜比古神從五位下清和天皇貞觀三年八月三日甲辰越後國從五位上彌彦神授從四位下

祭日

社格

所在

國幣中社
櫻井郷彌彦村(西蒲原郡彌彦村大字彌彦)